

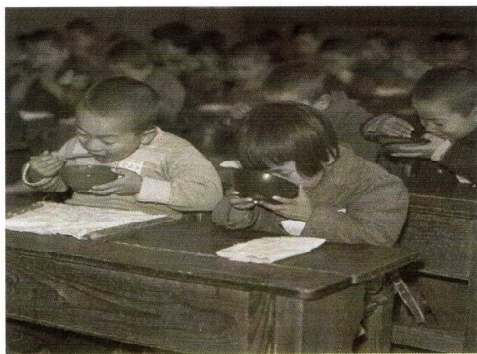
戦時中給食・棒踊り新聞

令和二年
一月二十九日
野村崇太



学校給食っていつから始まったの？

「学校給食っていつから始まったの？」と疑問に思った。そこで僕は、学校給食のことについて調べてみることにした。



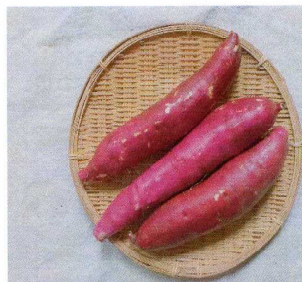
戦時中給食の様子

昭和十六年に、県立師範学校付属小学校で始まった。戦後は、米軍援助で昭和二十五年に再開した。昭和三十年に「県学校給食会」が発足。中種子はその後十年余りで全町成し遂げた。野間小(昭和三十年)で一番目、納官小(昭和三十五年)で二番目について、油久は三番目だった。昭和三十六年四月からの予定だったが、六年生に食べさせて卒業させると学校



2020年の給食

は家々によって違うだろうが子どもが手軽にさげられていても二本程度を入れる籠である。学校近辺の児童は自宅昼食だった。



昼飯ザルと芋

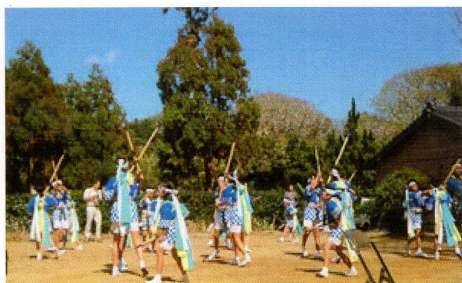
からいものは主食

長先生の思いで、三月十四日に開始した。毎朝、講堂で学年代表の委員会があった。最後に「今日の給食」があり献立発表がなされた。初めての献立の時は、下級生がどんな給食ですか？美味しいですか？と質問した。上級生は聞きたくても恥ずかしく、下級生の質問に期待した。(昭和四十九年にセンター方式へ昭和二十三年に油久小は給食の準備をするが、実施にはいかなかった。「昼飯ザル」があった。形状は家々によって違う

か？」と質問した。上級生は聞きたくても恥ずかしく、下級生の質問に期待した。(昭和四十九年にセンター方式へ昭和二十三年に油久小は給食の準備をするが、実施にはいかなかった。「昼飯ザル」があった。形状は家々によって違うだろうが子どもが手軽にさげられていても二本程度を入れる籠である。学校近辺の児童は自宅昼食だった。

油久の棒踊り

平成二十一年に美座が、十八年ぶりに棒踊りを復活させた。児童が、運動会や神社、町郷土芸能発表会で披露している。かつては、青年部が中心になり郷土芸能を披露していたが、近年は、さびしい状況だった。児童の継承で雰囲気盛り上がり地域全体の郷土芸能が復活した。



油久の棒踊り

感想

ぼくは、給食の歴史や油久の棒踊りの歴史を知ることができてとても良かった。また、昔の給食と今の給食の違いを知ることができてとても良かった。

島津藩が士気を鼓舞するために、棒術を踊りに仕組んだのがはしまりだ。明治十五、六年ごろ、加治木、加世田、日置から習った。油久は加世田から習って取り入れた。